

今月の本棚

編集者の
読んだ本

あなたが指差したのは
相手？ それとも自分？



「ビミョーな人」と
つきあう技術
アスコム
小倉 広著 1,000円

「自分の仕事をさえるくにはできないのに他人の仕事を手伝いたがる社員」「OJT研修で疲れ果て、早く帰宅したい新入社員に対し、慰労会(飲み会)の企画をもちかける先輩社員」「社内の観葉植物がずっと枯れていても見て見ぬふりをし、経営者に注意されて「小うるさい」と懲罰される総務部長」。

「ビミョーな人」は「あなたは周りの人を困らせている」と理解させるのは簡単ではない。しかし、そのままでは何も解決しない。「世界に変革を求めるなら、自分自身を変えることだ」(マハトマ・ガンジー)。相手に向けている視点を自分に向けて環境を改善しよう。

「大人の流儀」(伊集院静著、講談社、980円)は相手の育成本ではない。苦節を味わった大人にこそ動めたい。著者の言葉を借りるなら、「人間って賢しい生き物だな……」。だからこそ本書の流儀が活きる。妻との死別を語るコラムは特に泣かせる。(M・S)